

「導入・運用で出遭う5つの不安や疑問」と「運用していると思うこと」

1. **L**ibreOffice等のOSSは商用ソフトのようなサポート体制がありません、十分な運用保守ができるか、また運用保守のコストが増加しないか不安です。
 - 現在、商用ソフトメーカーからどのようなサポートをどの程度受けているのか?によって違います。私どもの場合、OSとOfficeのアップデートしか利用していませんでした。約1年半程度運用していますがサポートが無くて困ったことはありません。
 - ヘルプデスクであれば「株式会社アシスト」がサービスしているようです
 - WEB情報(HPやフォーラム)を検索することで「問い合わせ」に対応できます
 - 参考書籍は一般的な使い方であれば「OpenOffice3」と「実務で使える LibreOffice」で網羅できていると思います
 - 十分な運用保守という規定は各ユーザー毎に定義が違うので、現行と同じレベルの運用保守が可能か?という判断基準で評価した方が良いでしょう。
 - 運用保守コストの増加理由を絞り込まずに漠然と不安視するよりも、コストが増加する可能性を具体的に調査し、事前に対処していく方が良いでしょう。

また、OSS導入時だけに発生するコスト増なのか?ソフト変更時には必ず発生するコスト増なのか?を正しく分別する事も必要と思います。

2. **O**SSは導入ユーザー側の自己責任なので、OSSに関する知識を持つ技術者やサポート要員が十分確保できていない場合、運用は難しいのでは?と考えています。
 - 「OSSはユーザーの自己責任であり、メーカー製ソフトは自己責任ではない(メーカー責任)」という定義は本当でしょうか?
メーカー製にせよOSSにせよ、該当ソフトウェアを選択した行為自体はすべて利用者側の自己責任の範疇と考えています。
私どもの場合は「OSSに関する知識を持つ技術者やサポート要員」は十分確保どころか「確保できていない状態」です、このような体制でも目立った問題も無く運用できています。
専門の管理者や担当者・サポート要員が確保できないからこそ、ライセンス管理を含めた日常管理での手間の少なさ、PC増設時のセットアップの容易さは特筆すべき点だと思います。
 - 技術者やサポート要員が十分確保できなければ運用できないなんてことはありません。
メーカー製であれば「技術者やサポート要員が十分確保できなくとも運用できるのでしょうか?」自社で要員確保ができない場合、何が発生すると何がどのように問題となるのか?を正しく把握することが必要と考えます。
導入前には動作確認を行いません、必要な機能に不具合が見つければ導入できないと判断します。
要員確保してまで修正しなければならないバグ(不具合)とは一体どのようなバグを想定しているのか?を事前に調査し把握しておくことが必要だと考えています。
 - 現行を考えてみてください、全てのバグ修正や機能追加要望に対応してもらえていますか?
改めて、現在のメーカーサポート体制を事前に確認しておくことが必要です。

3. **導**入実績のあるSIベンダーが少ないため、製品ベンダー・ロックインは回避できたとしても、今度はSIベンダー・ロックインになってしまう危険性があるのではないかと?
 - 私どもはSIベンダーなしで導入しました、したがってSIベンダーロックインは発生していません。
 - ソフトの利用状況で違いますが、事前にしっかりと計画すればSIベンダーなしの移行も十分可能です。
 - 導入時にベンダーサポートを受ける方が手探りで移行を進めるよりも確実に作業負荷を軽減できますので、可能であればサポートを受けるほうがスムーズに移行できると思います。
 - Officeソフトの移行に限った場合、導入時にSIベンダーのサポートを受けたとしても、そのベンダーのサポートがなければ継続利用できない事態にまで発展するのでしょうか?
 - SIベンダーロックインになるまでベンダー依存したOfficeソフト運用とは、一体どのようなものなのか?を今一度考えていただきたいです。
 - 現行がMS系SIベンダー+ソフトベンダーロックインの状況であれば、OSS導入によって「OSS系SIベンダーロックインだけに移行できた」と考えることもできるのではないのでしょうか?

4. ソフトウェアのライセンス費用が無償あるいは安価である OSS の場合、単にソフトウェアの購入費用を削減しただけではコスト削減とは言えません。

ITにおける真のコスト削減とは、ITシステムの運用効率や利用率を高めることによる、小コスト投下での、より大きな価値回収という仕組みを構築することにあります。

「安物買いの銭失い」となっては意味がありません。

- 「上物買いであれば銭失いにならない」保証など何処にもない点に注意しなければなりません。
上物であれば大きな価値回収=真のコスト削減という仕組みが構築できる保証など何処にもないのです。
- 「ソフトウェア購入費用削減≠コスト削減でない」とする考えもありますが、直接費用削減を経営の第一課題とする導入指示者(経営者)にとっては「ソフトウェア購入費用削減=コスト削減」として経営に影響を与えることは間違いありません。
- OSS 導入により削減できた予算を、PC 台数を増やしたりグループウェアやクラウド等の情報伝達を効率化する方向に転用できるようになると思います。
これはコストの有効利用策であり、価値回収へ向けた仕組み構築の一つと考えています。
- Office ソフトの場合、ITシステムとしての位置づけによる運用効率や利用率よりも、文房具的な視点での効率や利用率を検討の方が実運用に即しているようです。
Office ソフトが経理処理の事前集計や文書発行用の事務処理ツールとして位置づけられている場合、集計表作成や文書発行にかかるソフト費用(管理コスト)の削減は「大きな価値回収へ向けた=真のコスト削減」であると考えます。
- OSS なら導入後「大きな価値回収の仕組み構築」が見込めないと判断しても、他のソフトへ切り替える等の選択が容易な点も評価できると思います。

5. 該当 OSS プロジェクトが廃止された場合、ソフト供給やメンテナンスができなくなるので利用に不安があります。

- ソフトの供給停止というリスクは OSS だけに限った問題ではなく、ベンダーが提供するソフトを含め全てのソフトウェアにおいても発生するリスクと考えています。
現在利用しているソフトウェアが将来なくなるという保証など何処にもありません。
- 単独メーカー独自のファイル形式を利用している方が不安になります。(だから ODF に変換する運用を急いでいます)
- ODF ファイルを利用するツールの一つとして LibreOffice を選択したと考えることができます。
万一 LibreOffice プロジェクトが廃止されるようなことがあっても ODF ファイルを利用する手段の一つが廃止されたに過ぎず、他の選択肢まで廃止されるというわけではありません。
- ODF 形式で保存していた場合であれば、ほぼ全てのオフィスソフトで読み書き可能ですから、適時、最適なオフィスソフトを自由に選択することができます。
- LibreOffice の場合、兄弟ソフトとも呼べる ApacheOpenOffice が存在しています。
ApacheOpenOffice の存在はお互いのプロジェクトをサポートし、お互いをサブとして利用可能な環境を構成している点で他のソフトより有利と考えています、また同じファイル形式を標準とした使用目的も同じソフトウェアが別々のプロジェクトで熟成されている状況は、プロジェクトの冗長化と考えることができ、利用者側にとっては安心できる事項と捉えています。

運用していると思うこと

【リビジョンアップとバージョンアップがスムーズになれば!】

- 企業でバージョンアップするのに一番効率が良い方法など具体的な運用法が公開されると助かると思う
 - リビジョンアップは差分、バージョンアップもワンクリックで完了するファイルを配布できないか?
 - ユーザー全員が同じバージョンのソフトを無償で統一運用できるのは OSS のメリットの一つ。
 - 各ユーザー自身でバージョンアップ可能な CD や DVD などを作成する。
 - ネットワークを利用した自動インストール方法などが公開されれば良いのでは?

【新バージョンにバグはつきものとかわかってるが・・・】

- 旧バージョンで動作確認済の事項が新バージョンではエラーになるような事態は困ると思う
 - いままでできていたことが出来なくなることは大問題になる(主に BASE で多いような・・・)
 - 安定度に注力した LTS: (Long Term Support) 版(LibreOffice-LTS(仮題))も検討してほしい

【トラブルが出ない Java って?】

- Java を入れなくても動作するようにできないの? って思う
 - 動作確認がとれた Java のバージョンが判らないので困る(どの Java を導入すべきか判断に迷う)
 - Java のバージョン管理が面倒(最新版の Java だと動作しない可能性がある)この場合、Java の自動アップデートも、「ありがた迷惑」になってしまう

【サポート企業や個人の情報が一覧できれば!】

- 何処に何をどのように依頼すれば良いのか? が判らないと行動できないと思う
- 依頼内容によってどの程度の費用が必要なのか? の見当がつかないと連絡できないと思う
 - 導入サポートをおこなっている企業や個人サポーターを紹介するサイトを構築する
 - OSS 導入経験がある S インテグレーター(法人・個人)を紹介するサイトを構築する
 - 概算費用の掲示が無いので連絡するにも腰が引けるし躊躇する
 - もちろん有償・無償問いません!

【機能判断材料】

- 知りたいのは Excel・Word では可能なのに機能がなくて実現不可能な事例だと思う
 - バグ(不具合)で残っている事項で運用上重要と思われるもの、よく利用する機能のバグは致命的(行の繰り返し印刷設定で 1 行目の設定が保存されない etc)

【普及・拡大】

- 企業普及に必要な事は「システム担当者の熱意よりも経営トップからの働きかけである」と思う
- やはりトップダウンが必要
 - 経営者的目線にとらえた LibreOffice 導入効果を経営トップ層の目につくように情報公開する(「経営者層が目を通すメディア」へのアピール戦略が必要なのでは?)主に企業経営者向けの雑誌などが良いのでは?
 - ODF 採用の企業や法人の一覧サイトを構築する(サイトで公開する):ODF 導入が目に見える
 - パソコン入門誌・活用誌などに連載中の各種 Ms-Office 講座に Calc・Writer 版を追加連載する
 - 勉強会や導入・移行・活用等、目的を絞ったワークショップをを定期的に開催する

【最後に】

- 現場がほしいと思う機能とは、自分達の身の丈にあった機能であって、無駄に多機能な事ではないと思う
 - 機能的には、ほぼ満足できるレベルに達している
 - 「余計なお世話機能」や「想定も見込めない新機能」よりも求めるものは「気の利いた機能」
 - 雲の上のようなお話をされましても・・・